

第15期 葛飾区社会教育委員の会議（第8回）会議録

● 開催日時 令和8年3月6日（金） 午後2時～4時

● 会場 区役所 706 会議室

● 出席者

社会教育委員（8人）

大島 英樹	歌川 光一	竹内 理恵	藤野 尚子
増田 龍二	加藤 藍	伊藤 香織	千葉 貴志

事務局職員（4人）

生涯学習課長	土居 真喜
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課担当係長	柳澤 雅弘
生涯学習課学び支援係	矢作 孝寛

合計 12人

次第

1 報告事項

葛飾区教育振興基本計画推進委員会について（竹内委員）

2 議事

（1）協議テーマについて

発表者 伊藤委員、千葉委員

発表内容 ア 活動していること

イ 生活の中のPTA

ウ PTAはこうあってほしいと願うこと

（2）令和8年度開催スケジュールについて

【配付資料】

- ・資料1 伊藤委員発表資料
- ・資料2 令和8年度開催スケジュール
- ・かつしかのきょういく 第159号
- ・かつしかの文化財 第115号

【当日追加資料】

- ・千葉委員発表資料

—開会—

○事務局 本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。ただいまから、今年度最終回となります、第8回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。

本日は、地域教育課の島村係長が欠席しております。

次に、傍聴についてです。本日は、傍聴者が1名いらっしゃいます。どうぞお入りください。

続いて、会議録についてです。前回の会議録につきましては、区のホームページにて公開しております。

次に、本日の資料について確認いたします。配付資料は、次第、資料1、資料2です。また、追加資料として千葉委員の発表資料を配付しております。参考資料として、かつしかのきょういく第159号、かつしかの文化財第115号をお配りしております。

それでは、以降の進行につきましては、大島議長にお願いいたします。よろしくお願いたします。

○議長 皆様、改めましてこんにちは。本日は、報告事項と議事の二つがございます。それでは、はじめに報告事項といたしまして、葛飾区教育振興基本計画推進委員会について、竹内委員からご報告をお願いいたします。

○竹内委員 皆さんこんにちは。2月12日に、立石地区センターの大会議室において開催された、葛飾区教育振興基本計画推進委員会に出席してまいりました。この会議では、葛飾教育プランとして、令和8年度の取組予定についての説明がありました。

P T Aに関する内容では、青少年委員会の三瓶会長からのご意見として、近年P T A活動が縮小してきているという話があり、今後は青少年委員を中心にバックアップを行い、ほかの組織とも連携を取りながら活動していきたいという報告がありました。

また、小学校と中学校の統合が進められている件についての説明もありました。よつぎ小学校と四ツ木中学校が一体となり、また、東四つ木小学校と中川中学校が、令和12年度から運営を一体的に進めていく予定であるとのことでした。さらに、柴又小学校、東柴又小学校、桜道中学校については、令和13年度中に一体的な運営を行う予定であるとの説明がありました。

運営を一緒にすることで、P T Aも2校又は3校が一緒になることについて、これまでの文化とは異なる新しい体制の中で、今後どのような考え方でP T A活動を進めていくべきか、検討が必要になるのではないかと感じました。

当日は、参加者21名のうち5名が欠席し、16名が出席し、教育長、教育次長出席のもと、議事が進められました。以上です。

○議長 竹内委員、ご報告ありがとうございます。ただいまのご報告について、ご質問などはございますか。いろいろと気になるお話がありましたが、この後の議論の中でも触れられる部分があるかと思っておりますので、報告事項については、ここで一区切りとさせていただきます。

それでは、議事入ります。これまで、順に皆様から発表をいただきまして、本日は学校現場の立場から、校長先生お二方に発表いただきます。はじめに、伊藤委員からお願いいたします。

○伊藤委員 金町小学校校長の伊藤香織です。よろしくお願ひいたします。本日は、教員として、また保護者として、これまでPTAと関わってきた経験についてお話しさせていただきます。最初に勤務したのは、大田区の山王小学校というところです。その後、葛飾区内の原田小学校、末広小学校、よつぎ小学校、金町小学校という形で、学校に勤務してまいりました。

教員になりたての頃は、PTAというのは、行事のたびに保護者の方が協力的に動いてくださる存在で、そこで顔見知りになれていいなという印象でした。その後、主幹教諭や生活指導を担当する立場となり、地域行事にも参加するようになる中で、学校とPTA、地域との連携の重要性を、より強く感じるようになりました。実際に、PTAの方々と一緒に行事に関わることで、自分自身も学ばなければならないことが多くあると感じました。

特にPTAの方々との連携という点で密度が濃かったと感じているのは、副校長時代です。副会長と、ほぼ毎日のように些細なことや行事について、様々なことを話していました。ちょうどコロナ禍とも重なっており、そういう苦難を一緒に乗り越えたという思い出が強く残っています。子どもたちのために、様々なアイデアを出し合いながら、一緒に動いていたことが印象に残っています。

現在は校長として2年目となり、副校長時代とは立場が変わってきていることを意識しながらも、つい一緒に動いてしまう部分もあります。その中で意識しているのは、学校の代表として、しっかりと学校の考えを伝えること、また学校の立場から適切な情報提供を行うということです。

連携の推進という点では、教育活動や学校行事について、どのように協力していけるかを意識しています。PTAの活動に理解を示し、支援しながら、総会とか役員会などにもできる限り参加し、アドバイザーという言い方はおこがましいかもしれませんが、そういう立場で関わることができればと考えています。

PTA、学校、地域、家庭が中心となって、子どもたちを全体で育てていくために、自分に何ができるのかを常に考えながら、日々活動しています。PTAに感謝の気持ちを持ちながら、幸せな教員生活を送らせていただいている一つとしては、そういう連携があると思っております。

生活の中のPTAというところでは、私生活では子どもが2人おり、同じ区内の小学校に通わせていただきました。小学校の保護者という立場になると、6年間のうち2回は常設委員をやるといった、前情報が入ってきます。特に1年生のときは立候補者が多く、1年生のうちにやって、4年生ぐらいでやれば、6年生で何もやらなくて済むという感じでした。自分も参加し、仕事をしているため、土日や休みの日にできる活動など、自分ができる範囲の役割を選んでやっていました。PTA活動が盛んな学校だったと思いますが、一方で、活動が大変そうだからという理由で、あえて別の小学校を選ぶという方も、いなくはなかったかなと思います。

保護者の立場としては、PTA活動を通して学校のことをよく知ることができ、別の学校の様子も知れて、様々なつながりができたことは、非常に感謝しています。子どもたちが中学生になった際も、長期休業中の活動や、夜に集まって行う活動など、参加しやすい

形を選びながら、少しでも学校や子どもたちの力になればという思いで関わってきました。

その後、コロナ禍になり、活動ができなくなって、一度なくなったものはそのままやめていこうという流れが出てきました。高校では、広報委員などをやらせていただいて、できる範囲で活動しましたが、こういう場でなければ知り得ない子どもたちの情報も多く、お母さん方からいろいろとお話をいただけて、すごく救われました。生活の中のPTAとしては、子どもたちの学校での様子を知るきっかけになったと思います。行事で忙しい時期には、子どもより先に家を出て、子どもが寝た後に帰宅することもありましたが、学校へ行くことで、子どもも喜んでくれていたと感じています。

また、PTA活動を通して保護者同士のネットワークができたこともよかったです。働いているだけでは顔も名前も分からなかった方々とも、活動をきっかけに知り合い、今でもつながりが続いています。

ロードレース大会など、地域行事の準備にも関わる中で、多くの地域の方々が子どもたちを支えてくださっていることを実感することができました。学校ごとに様々な方法があり、それを知ることができたのは、自分自身の仕事にも大いに役立っています。

ずっと教員をやって、子どものPTA活動にも参加させてもらって行く中で、時代とともにいろいろなやり方が変わってきたと思います。書類がたくさんあった時代から、今ではオンライン会議やペーパーレス化が進んでいます。

最後に、PTAはこうあってほしいと願うことですが、PTAは、学校を支える組織として、子どもの成長を願う保護者と教員がつながる場であってほしいと考えています。前例踏襲にとらわれず、様々な立場の保護者がいることを理解した上で、できる人ができる形で関われる、間口の広い組織であることが大切だと思います。それが日頃の保護者の体制だったり、学校の体制だったりにつながれる温かい関係づくりにつながっていると思います。

PTA活動を通して、保護者と学校の信頼関係が深まっているところがあるので、できればこういう活動はなくならないでほしいと思うし、後々その中で育った子どもたちが、地域で活躍できるような環境づくりをしていくのが大切だと思っています。

○議長 ありがとうございます。それでは、伊藤委員のご報告について、ご質問、ご感想、ご意見がありましたらお願いいたします。

○加藤委員 伊藤先生のお話を聞かせていただいて感じたところですが、私も小学校のPTA会長をやっていたことがあります。その中で、先生との関係を築こうと思っていましたが、今振り返ると、十分にはできていなかったのではないかと考えています。会長という立場では、校長先生などとコミュニケーションを取ることは多かったのですが、副会長や各委員会の方々は、先生とコミュニケーションを取ることが、あまりなかったのではないかと印象があります。そう考えると、すごくもったいなかったなと感じています。

伊藤先生のお話を聞いていて、もっと先生とコミュニケーションを取れるようなイベントや行事を作れたらいいのかなと思いました。ただ、先生の時間を取ることは、働き方改革もあり、保護者と先生の時間を新たに作ることは難しい面もあるのかなとも思っています。

子どもたちのために活動している団体ではありますが、日々子どもたちを見ていただいている先生との関係を築くことも、保護者としては大切なのではないかと感じました。本日はお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

○伊藤委員 まさに加藤委員がおっしゃってくださったとおりでと思います、働き方改革の影響もあり、PTAの行事に常に参加することは、難しくなっているのが現状です。ただ、年に1回だけでもPTAの行事に参加するとか、何かしらの関わりを持つことはできるのではないかと感じています。実際に行事に参加すると、教員にとってプラスになることは非常に多いです。保護者からの信頼を得ることができますし、地域の方々もあの先生はよく参加してくださいませねといった形で、よく見てくださっています。

また、行事を通して子どもたちの意外な一面を見ることができることもあり、そうした経験をした教員は、毎回でなくても、この行事には参加しようといった意識を持つようになるのではないかと思います。振替休暇を取るなど、勤務面での工夫も必要になりますが、参加することで得られるものは多いと感じています。

○加藤委員 ありがとうございます。

○議長 最新号の区の広報に掲載されていた、かるた大会の記事に、伊藤委員が写っていらっしやいました。

○伊藤委員 かるた大会については、授業の中でも取り組んでいますし、保護者の方々も協力していただきます。また、地域の方々、地区委員会、PTA、青少年委員の方々に関わってくださり、みんながつながって実施している行事だと感じています。地域ごとに力の入れどころは違うと思いますが、そうした活動を地域や区で支えていただいていることは、とてもありがたいです。

○事務局 あの方で見ていると、それぞれの地域の思いや、子どもたちにかける気持ちといったものがよく見えてきます。頑張っている子どもたちを、地域の大人が支えているという姿が目に見えるので、すごく面白いと思います。生涯学習課が仕掛けた事業ではありますが、その思いがしっかりと伝わり、地域の方々为主体的に取り組んでくださっていることが分かるのが、あの事業の良さだと感じています。

○副議長 私自身、母が小学校の教員をしていたということもあり、教員という立場と、保護者としてPTAに関わる立場の両方を経験されている伊藤委員のお話に、とても身に覚えがあると感じました。

そこでお伺いしたいのですが、教員の年齢構成は20代～30代が多く、40代が少なくなっています。若手の教員の意識を伺いたくて、昔は先生になりたい方は子どもが好きで子どもと関わりたいから特別活動とか地域のイベントが大好きというイメージがありましたが、先生の方から見て、最近の若手の教員は合理的というか、出なくて済むなら出なくていいという傾向が増えてきていると感じることはありますか。

○伊藤委員 年齢は関係なく、人によるところが大きいと思います。教員に限らず、合理的とかそういう時間で区切る流れは、少なからずあるのではないかと思います。ただ、風土として、参加しやすい雰囲気があるかどうかという点も大きいと感じています。行ってみたら楽しかった、意義を感じたという経験があると、自然と参加しやすくなるのではないのでしょうか。子育て世代は、やはり時間的な制約があるため、土日の参加は厳しい面が

あります。若手のほうが自分で作れる時間があるので、PTAの方から声をかけていただくことで、参加につながることもあります。

○副議長 その場合、管理職から促すよりも、保護者が求めていますといった形で伝えるほうが、参加しやすいのでしょうか。

○伊藤委員 いろいろとあるので、あまり強く促すことはしていません。参加していただいた教員には、ここで振替休暇を取ってくださいとか、勤務体系のことを話したり、感謝の気持ちをしっかり伝えたりしています。誰々が喜んでいたという声も伝えています。行事は数多くありますので、毎回ではなく、年に1回、2回、この行事といった形で、無理をしないようにしています。

○竹内委員 働き方改革の影響で、校長先生から担任の先生に、これやってくださいと言いつらくなっている状況があるのではないかと思います。学校運営が窮屈になってきていると感じることはありますか。

○伊藤委員 教員としての職務はみんな果たそうとしてくれています。また、スクールサポートスタッフやクラス支援員など、支援してくださる方が増えてきており、業務を減らそうとする改革も進んでいます。昔は成績も手書きで、徹夜で行っていた時代もありましたが、今はICT化も進んでいて、負担は軽減されてきています。カスタマーハラスメントへの意識も浸透してきており、保護者対応も過度なものは減ってきていると感じます。

教育のために必要な業務については、当然お願いしていますが、プラスアルファの部分については、こちらでさじ加減を調整しています。行事の内容や学年、教員の状況を見ながら、この行事はこの先生にお願いしようといった形で割り振っています。

○藤野委員 地域行事などに音楽クラブが出演する場合、音楽担当の先生が行かないといけないと言われてたりします。

○伊藤委員 どこかのクラブが発表しないといけないとなると、専門の先生が行かないといけないことはあります。それを特色ある活動として打ち出して、例えばその先生の授業時数を少なくして、特色ある活動の担当の先生として割り当てて、そういう業務の経験を別のところで図るとか。理想としては、地域の人材や外部指導員の活用が進むと負担軽減につながると考えています。

○議長 教員という立場ではなく、PTAの一員として他校の様子を知ったことで、印象に残っていることや、こんなに違うのかと思った経験はありましたか。

○伊藤委員 視点が変わったかもしれないです。教員として見るPTA、保護者として見るPTAというところで、面白かったなというのはあります。

同じ区内でも、地区ごとにロードレース大会のやり方が違ったり、地区委員会の活動頻度が違ったりします。この学校は毎月やっているが、こっちは学校は年2回だけなど、それぞれの学校や地域には、それぞれの成り立ちや背景があり、その中で現在の形になっているのだということを感じるようになりました。ほかと比較するのではなく、それぞれの良さを理解できるようになりました。

○議長 先生は異動もありますので、学校ごとの文化の違いを感じる機会も多いのではないのでしょうか。

○伊藤委員 葛飾区は、地域が学校を支えてくださっているということを強く感じています。かるた大会などで、地域の方と再会することも多く、長年支えていただいている方々がいらっしゃることを実感しています。

○生涯学習課長 P T Aの活動に先生が参加される時は、お仕事になるのですか。

○伊藤委員 基本的には任意参加です。正規の教員はP T A会費を払って、広報委員などの役割を担う方もいます。法的な部分については、正確なところは分かりません。

○生涯学習課長 どのような捉え方をされているのか気になりました。

○伊藤委員 子どもの教育活動のために、保護者と学校が協力し合うことは大切だという考えのもとで、参加している教員が多いと思います。

○生涯学習課長 自発的意思に基づいて皆さん参加されているのですか。

○千葉委員 多くの場合、平日の夜や土日に会議や行事が行われています。そうした点では、P T Aの方も時間を割いて参加していただいています。教員も同様に自発的に参加しているという形になります。勤務として振り替えるのは、よほど何かないと、現在の勤務制度では難しいかもしれません。

○生涯学習課長 分かりました。ありがとうございます。

○議長 少し話がずれますが、生涯学習課が社会教育関係団体の活動に参加する場合、それは仕事として対応しているのでしょうか。

○事務局 基本的には、職務に関わる内容であれば仕事です。例えば、かるたなど生涯学習課が所管する事業については、説明会や講習会、会合なども含め、職務として対応し、夜間の場合は超過勤務の対象となります。

ただし、生涯学習は幅が広いので、予算化されていない事業についても、団体から相談があると関わることとなります。そういったものに、時間外に参加する場合は、職務に当たるかどうか管理職と相談して決めます。

○生涯学習課長 基本的には仕事として対応していますが、個人的なつながりから発展したケースなど、職務として整理しにくい場合もあります。また、公務員という立場上、飲食を伴うものについては、公式なものであっても仕事にはなりません。

○議長 この話を聞いて、勤務時間内に、まだ事業として関わっているわけではない団体の方々から声をかけられる場面も出てきて、それが食事のタイミングになることや、様々なことが、逆に発生しやすくなるのではないかという気もしています。

○生涯学習課長 その点につきましては、それを包括するための仕組みとして、学習相談という制度があります。生涯学習の担い手として、地域の団体やサークルの方々から、様々な相談があった場合には、その相談を受けることも職務に含まれる、と定義されています。

○議長 学習相談という名付け方と比べると、学校の先生の場合、どのようにその構造を名付けているのかによって、言い方を変えることで、もう少し業務として明確に位置付けられる可能性があるのではないかと思います。

○生涯学習課長 今のお話を聞いて少し気になったのは、先生の自発的な意思と、命じられて行うこととの違いです。仕事は職務命令に基づいて行うものであり、自分の気が進まないことであっても、やらないといけないのが仕事だと思います。

○議長 生涯学習は相談という、いわばマジックワードのような言葉で整理されていますが、学校にそんな言葉を使ってしまうと、業務の範囲が無限に広がってしまうのではないかと思います。

○副議長 この会議の中でも、保護者の方が地域の子どもを育てようとする意識が、だんだんと薄れてきているという話が出ています。教員の方は、偶然その地域の学校に異動となり、そこから地域への愛着を育むのはどうやってなされるのか、そういう機会がありますか。例えば、ほかの区から急に葛飾区に来た場合、この小学校はこういう伝統があって、こういうお祭りがあって、といったことを一括して学ぶ場があるのか、気になっています。

○伊藤委員 基本的には、習うより慣れろという部分が大きいと思います。1回やってみて、はまる方ははまる、というのはあります。地域のお祭りに毎年参加してくれる先生がいたり、PTAの卓球大会に必ず参加している先生がいたりします。こういう行事がある、という話はしますが、保護者との連携は職務の一つであり、子どもの教育には必要なことなので、そこは職務としてやらないといけない部分だと考えています。

一方で、PTAの方々は、いわばボランティアとしてやってくださっているという認識も、学校側として持たなければならないと思います。そうした仕組み的なことを学ぶ機会も、若手の教員を見ている必要だと感じていますし、それはこちらがやらないといけないことだと思います。

○副議長 保護者の方は、何らかの事情があって、自分でその地域を選んで住んでいます。先生は自分で選んでいるわけではありませんよね。

○伊藤委員 3校目、4校目となってくると、ある地域に落ち着く方も多くなり、その点ではだいぶ違ってくると思います。私自身も葛飾区に住み、区内の学校を回らせていただいているので、区の行事なども知っているのも、参加しやすいという面はあります。

一方で、急にきた教員にとっては、何をやっているのだろうと思う場合もあるでしょうし、地区委員会がかかる大会、少年の主張大会、スポーツフェスティバルをやっていたり、さらに学校の音楽会などもあり、それらが一気に重なると、威圧感を感じてしまう方もいらっしゃるかもしれません。

一つ一つはとても意味があり、大事なことだと思いますが、教員の適性を見ながら、ここはどうでしょうかと声をかけていくことが大切だと思っています。

○副議長 母親が異動する際に、なんとなくこの学校はいい子が集まっているとか、大変そうな子が多いといった話は聞いたことがあります。あの地域にはこういうお祭りがあるといった話は、一度も聞いたことがありませんでした。なので、地域について詳しくするには、やはり実際に関わって慣れていくしかないのだろうなと感じていました。

○議長 私が勤めている大学のある品川区も、城南の下町的な地域で、商店が残っている学区などがあります。そうした地域では、かつてPTAをやっていた方が、その後、町会などで学校に長く関わり続けているケースもあります。先生の変遷を定点観測されていて、そうした方々の影のパワーのようなものが、学校の文化を持続させているのではないかと感じています。

悪い方向に働くこともあるかもしれませんが、この学校ではこういうことをやってきたという思いが引き継がれていき、先生が異動しても、この学校はこういうのが好きだよ

といった文化が残る。それは非常にすごいことだと感じており、伊藤委員からのお話からも、そのようなことが伝わってきました。

○伊藤委員 まさにそのとおりだと思います。教員は数年で異動がある中で、長年地域で学校を支えてくださっている方々、最初は保護者としてPTAに関わり、その後、自治会などでも活動されている方が多くいらっしゃいます。そうした地域の方々との連携は非常に大切ですし、PTAと地域の人材がつながっていることは、学校としても心強いです。

○議長 学校選択制についてですが、品川区では一時期、これが一気に進んだことで、混乱に陥りそうになりました。小学生同士が、お互い反対方向へすれ違って通学するような状況です。そうすると、先ほどの地域への愛着という話が歪んでしまい、これまでと違う形になってしまう懸念があります。そこら辺は葛飾区では課題になっていないのでしょうか。

○竹内委員 以前は、学校の自由選択制がありましたが、東日本大震災の後、徒歩で帰れないと困るということで、廃止されたと聞いています。

○千葉委員 現在は原則として学区域制となっています。もちろん、様々な事情に応じて対応していますが、学区域がなくなっていた当時よりは、地域の子どもたちが通う割合が高くなっているのではないかと思います。

○藤野委員 葛飾区でも、すれ違って逆方向に通学するという状況はありました。人気のある学校に人が集まり、教室が足りなくなってプレハブ校舎を建てる一方で、別の学校では教室が空いているということがありました。

私の近所の小学校は教室が余っていたので、隣の学校の備品を預かったりしていましたが、こちらは空き教室があるのに、なぜ別の学校に予算を使うのかといった声が地域ではありました。今は選択制がなくなったので、普通になりました。

○議長 サービスとして考えると、あの学校はいいサービスがあると集まったとしても、それを支える人が地域に残らなければ、持続しなくなってしまいます。

○藤野委員 前の学年で、この学校はよかったと言われていても、自分の学年がどうかは分かりません。どんな子が集まるかは分からないので、そういう話を聞いて疑問に思った保護者もいると聞いています。

○竹内委員 大体、いい学校と言われた後は、だんだん人数が増えて、課題が増えていく傾向があります。

○藤野委員 どうしても波があります。今は発達障害のある子どもへの支援教室がありますが、私の子どもが通っていた頃は、そうした制度がなく、多動の子が教室を飛び出してしまい、先生が追いかけて、他の子どもたちは先生が戻るまで待つ、といったことがありました。そうすると、あの学校は子どもを放っているという噂が流れて、選ばれなくなってしまうこともあったようです。私の子どもたちの時代はそういうことがあって、先生も大変だというのは聞きました。

○議長 大事なのは、子どもたちがどんな経験できるかという点で、そういう情報を皆さん一生懸命集めているのだと思います。

○伊藤委員 幼稚園や保育園でも、いろいろと情報を集めて学校を選択している方が多いと思います。近隣の学校は選べるので、新校舎の学校などは人気が出て、抽選になることもあります。

○議長 幼稚園と小学校の連携という点で、小学校に来てみようといった取り組みは、葛飾区ではやっていますか。

○伊藤委員 やっています。例えば、学校行事に呼んだり、3学期になると保育園児を呼んで、この学校はこんなところだよと体験してもらったりしています。連携園がそれぞれあって、すごく幸せな空間を作っていただいています。

○藤野委員 人数が少なくなったときには、こちらからチラシを配りに行ったこともありましたが。幼稚園の子どもが参加できる行事の場を作って、また来てくださいと声をかけて、PTAでチラシを配りに行ったことがあります。全学年1クラスで、1クラス30人しかない時期があり、なくなってしまうかもしれないという噂が広まったこともありました。統合のリストに載っているという話を聞くと、幼稚園や保育園にチラシを配りに行ったりしました。今は盛り返してきて、PTAも頑張っていて活動しています。

○増田委員 いろいろなPTAを見ていると思いますが、仕組みやシステムとして、これはよかったものはありますか。私がいた本田小学校では、卒業までに2回は何かをやるという仕組みでしたし、近くの川端小学校では、6年間必ず何かしらに所属するという形でした。

○伊藤委員 私自身に関わった経験も含めてですが、時代とともに、必要な委員会と、そうでない委員会が出てきていると感じています。以前は登校班があったので必要だった支援も、今はなくなっているなど、状況が変わっています。金町小学校では、常設委員会も含めてかなり見直しを行っています。以前は一人一役でしたが、常設委員もかなり減らし、保護者の意見を聞きながら、教員の意見も聞いていただいています。

例えば、運動会はお手伝いが必要だけど、こちらの活動はなくても大丈夫です、というような話し合いを重ねています。次年度に向けて見直しを行っている点は、とてもありがたいと感じています。頻繁に形が変わると保護者が迷ってしまうかもしれませんが、学校の状況を見ながら、減らせるところは減らし、お願いするところはお願いする、そのバランスをとってくださっています。

やれる人がやれる形で、読み聞かせなどは大事なので続けてほしいですが、人が集まらなくなったら回数を減らして、柔軟に対応できる体制が整っていることが、とてもありがたいです。

本部役員の方々が、今は前向きに取り組んでくださっていますが、PTAは必要ですかというところから入られると、厳しいところがあります。そうではなく、やれることをやってみましょうと、いろいろな人に声をかけたりして、つないでいてくれる雰囲気ができているのが、ありがたいと思います。

お母さんたちも顔見知りが増えているというのはすごく感じます。そういうつながりで、あの方はDJをやっている、司会が得意、トラックを運転できるといった情報が共有されていくのも、ありがたいです。

PTAの垣根が低く、ちょっとやってみようと思える雰囲気を作ることは、大事かもしれません。幼稚園とか保育園のつながりで、役員をやっていたから引っ張られたパターンがすごく多い中で、引っ越してきたばかりの方でもできるようになるといいと思います。

○増田委員 以前は、今までのやり方は変えないという考えの会長が多かったと思いますが、今は時代に合わせようとする方が増えてきていると感じますか。

○伊藤委員 増えているかどうかは分かりませんが、本校でやってくださっている方は、そういう方だというのは大きいかもしれないです。楽しんでやってくださっているのはすごく伝わってきます。本部役員同士で、ああしよう、こうしようと話合っていて、そういうコミュニティができているからというのはあるかもしれないです。去年どおりやらないといけないとか、マニュアルがありますとかではなく、手作り感がある点が特徴だと思います。

○竹内委員 私がPTAをやったときにも、楽しくなければボランティアではないという言葉をよく耳にしました。

○議長 この間のご報告で、自分から見つけて楽しまれているのも伝わりました。歌川先生も楽しさということをずっと強調されているので、大きなヒントになりそうです。

○伊藤委員 その姿を見て、子どもも本当に嬉しそうです。

○議長 ありがとうございます。それでは続いて、小学校から中学校に上がるとどうなのか、千葉委員お願いいたします。

○千葉委員 事前に資料を提出しなかったもので、本日、持参しました。資料をご覧ください。改めて、中学校の成長段階という点でお話ししますと、自我が芽生えてくる時期であり、自分自身のことも理想と不安を感じながら成長していき、保護者と子どもとの距離感が違ってきます。保護者も小学校までとは少し違った子どもとの距離感に困ってしまう部分があるので、保護者と学校の関係はとても大きいと感じています。

それでは、まず1枚目の資料、私の経歴についてお話しします。1校目は、荒川区の中学校で6年間勤務しました。教育実習以外の経験がなかったため、何もできない状態でした。車の運転に例えると、教習所の中では運転したことはあるけれど、路上では運転したことがないような状況です。

今でも若い教員を暖かく見守ってくださる保護者の方がたくさんいますが、当時は若い教員がいきなり担任になっても、保護者の方が逆に育ててあげようという雰囲気があったのかなと思います。その中で自分も育てられたと思います。

昔は家庭訪問もあり、初めて担任を持った際には、この本を読んで見たらと勧めていただいたり、頑張りなよと声をかけていただいたりしました。あとは、先輩教員からPTA活動への参加の大切さを教わり、一緒に参加しました。教員1年目からPTA活動に積極的に参加できたことは、自分にとっての財産だと思っています。

2校目、3校目では30代、40代となり、足立区と台東区の中学校に勤務しました。1校目でPTAの大事さは分かっていたので、この年齢になると、学年主任などの立場で、保護者やPTAの方々の協力をどう生かすか、という視点を持つようになりました。

その結果、学級や学年の運営がうまくいったり、PTAの方にお問い合わせしたりする場面もありましたし、逆に学校の状況を保護者に伝えることで、情報の共有や理解が進んだと感じています。自分自身がミドルリーダーの立場になり、先輩から学んだように、後輩にもPTAと教員集団との相互の信頼関係を作れる立場になりたいと思ったのが、この20年間くらいです。

4校目で50代になり、初めて副校長として葛飾区に来ました。竹内委員には、その際大変お世話になりました。葛飾に来たときに、区は違っても、生徒や学校に慣れていけばすぐ順応できるだろうと思いましたが、PTAとどううまくかみ合って副校長として頑張れるか、地域の方に愛される学校づくりができるかが、一番不安でした。

その不安を払拭していただける、とても温かい地域でしたので、PTAや地域の支えで成り立っているのが学校だと改めて実感しました。一番不安な部分を払拭していただいたので、強い感謝と実感したのが副校長の4年間でした。

そして5校目、6校目で、葛飾区内で校長を8年間させていただいています。校長になると、PTAは学校経営に不可欠なパートナーであり、学校を良くするために、PTA会長を中心に相談しながら進めていくことが重要だと考えるようになりました。

次に、PTAは学校にとって最も信頼できる団体です。学校は児童生徒のためにあるので、学校の方針は子どもファーストでなければいけません。子どもファーストを共有するのは誰かと考えたときに、保護者の集団の中で一番まとまっていただけPTAが、子どもファーストの方針を共有できる最適な団体だと思っています。

教育の充実に向けて、心強い手厚い支援をお願いできるのがPTAです。何かお手伝いいただくときに、知らない団体の方でも親身になってお手伝いいただける方もいますが、やはりPTAがサポートしてくれるというのは、子どもたちにとっても、他の保護者にとっても安心だと思います。

また、PTAは不可欠な相談相手でもあります。保護者と学校の双方の視点を理解した上で意見をいただける存在であり、その着地点を一緒に考えていただけることが、PTAの素晴らしいところだと思います。例えば、行事の見直し、校則の変更、物価高騰に伴う購入物の価格変更など、様々な場面でPTAのご意見をいただきながら進めてきました。緊急時の対応についても、PTA会長に相談することができ、まさしく不可欠なパートナーだと思います。

3番目、PTAは地域で活躍する人材の宝庫。PTAで活躍された方々は、青少年委員や町会、子ども会、民生委員・児童委員など、いろいろな役割で活躍されています。学校が地域から学び、連携を深めていく上で、PTAはコーディネーター的な役割を担っていると思います。生徒と地域を結びつけることがゴールであり、例えば地域の行事に子どもたちを参加させるとか、地域の方たちに学校に来ていただくとか、PTAの存在は、学校にとって財産だと思っています。

4番目、もしPTAが機能存在しなくなったらという懸念です。学校全体、生徒全体、学校の未来も含めて、成長や有益性の視点が維持できるのかという不安があります。保護者の価値観や教育感、期待や要望が多様化する中で、特にコロナ禍では相反する意見への対応に苦慮しました。

感染対策でも、マスクをつけさせたいという意見がある一方、なぜそこまでマスクをつけさせるのかという意見もありました。部活動についても、実施すると、なぜやるのか、中止すれば、なぜ子どもたちの楽しみを奪うのかという声があり、行事についても、この行事をなぜ中止にするのか、なぜ実施するのかといった意見がありました。こうした場面で、学校として保護者に一つの方向性を示す際、信頼できる相談相手としてのPTAの存在は、欠かせないものだと感じました。

また、PTAがなくなると、教員の負担増につながります。PTAが機能しなくなったり、存在しなくなったりした場合、行事等の内容は簡素化していくのではと思います。働き方改革が進められていますが、これが進まなければ教員志望者の減少は止めることはできないとも言われています。東京都においても、新規教員の一年以内の離職率が非常に高い状況です。

東京都の教育では、誰一人取り残さず、すべての子どもが将来の希望を持って、自ら学び育つ教育を目指すと言われています。これを実現しなくてはならない中で、求められているのが、個別最適化された教育、子ども一人一人に応じた教育です。それを実現するためには、多様な支援が必要になります。昔のように、みんなで立って、座ってという一律の指導の時代はもう終わったということでもあります。自分にも子どもが複数いますが、兄弟でも全然が性格違いますし、30人40人いればその一人一人の個性が違います。

そのような中で、個別最適化に少しでも近づけていくためには、教員に求められる職務も複雑で多様なものになっています。信頼できる団体からの支援がなければ、東京都の教育の具現化は難しいと思っています。

5番目、数年以内に葛飾区内全校に学校運営協議会を設置される計画です。全校がコミュニティ・スクールになるということが打ち出されております。現在は、学校評議員会という形で各校が取り組んでいますが、今後は、地域住民、保護者、地域コーディネーター、有識者、教育委員会、校長が認めた方を加えた中で、様々な意見をいただきながら、学校をさらに良くしていくための、学校評議員会をバージョンアップした形が求められています。

その円滑な運営や機能の充実を、数年間で進めていくと思います。そうすると、学校と地域と保護者が関わる中で、特に地域から意見をいただき、学校はそれを具現化していくだけでなく、すべての方が当事者意識を持つ必要があると言われております。学校が担う部分、地域が担う部分、保護者が担う部分を、それぞれが役割分担し、連携と協働によって取り組んでいくことが、コミュニティ・スクールであると示されています。

PTAがあるかないかによって、コミュニティ・スクールが、絵に描いた餅になってしまう可能性があると思っています。

6番目、PTAの今後に向けて、あくまでも個人的な考えですが、持続可能な活動、団体を目指すことが必要だと思います。その際、とても強力に引っ張る方がいてうまくいく時期もあれば、そうでない場合もありますので、まずは、すべての保護者の願いが、自分の子どもが通う学校で、いい教育が行われ、子どもが成長していくことであるという点を土台に考えていくことが大切だと思います。

それを別の視点で考えると、すべての生徒にとって有益な還元につながる学校教育を目指すということになります。そのためにも、すべての保護者に学校を支えていただく共同体として、PTAへの理解と協力を得たいと考えています。保護者の活動についてはそれぞれ事情もあるはずなので、できる時間にできる範囲で行うことが大切です。例えば、何々委員になった、何々の分担になったとしても、そのときに無理であれば、欠席してもいいのではないかと思います。無理なときには無理と言える関係を作り、出られる方が出るという考え方が大切だと感じています。

次に柔軟な組織です。いろいろな考え方があると思いますが、役員や各委員会について、柔軟な人数設定を行うことが必要ではないかと思っています。これまでのように、副会長は何名、会計は何名、各委員は各クラスから1名ずつ、あるいは2名ずつという形になると、その学級の中で引き受けられる方がいない場合、くじ引きになってしまいます。

そのため、何名程度という柔軟な設定にし、不足した場合には、組織全体でどのように補っていくのかを考える必要があるのではないかと思っています。また、学級ごとの定員を撤廃し、学年単位で何名程度とする形でもいいと思います。さらに、毎年なり手が不足する委員会については、組織の改編も必要になるかもしれません。もちろん、どの委員会も大切ですが、持続可能という視点で、PTA全体として考える必要があると思います。

加えて、会長を立てない学校もあると聞いています。会長の負担軽減として、卒業式や入学式、運動会でのPTA会長挨拶などについても見直したり、会議への出席についても、副会長や役員が代わって出席したり、場合によっては誰も出席しないという選択があってもよいのではないかと思っています。行政の集まりでも、そういうことを最初にお話いただければ、より持続可能な方になるのではないかと思っています。

教員がどうPTAや地域に関わっていくかということですが、今の学校は2年目になりますが、昨年度、PTAOB会とソフトボールを行いました。若手教員や野球経験のある教員に声をかけ、私自身も参加しました。その際、もう少し参加者が増えるといいですねという話になり、今年度はかつしか教育の日の午後に実施したところ、教員が十数名参加しました。教員チームとPTAのOBチームで試合を行い、教員も楽しく参加でき、PTAOBと交流できてよかったと感じています。

参加した教員からは、今後はPTAの活動にも参加したいという感想が聞かれました。翌月には、地区のロードレース大会が学校で開催され、その際にも教員が十数名、休日にも関わらず参加し、生徒を応援したり、ロードレースの大人の部で走ったりしていました。教員にも徐々に、地域やPTAと関わっていこうとする意識が芽生えてきたのではないかと思います。以上です。

○議長 ありがとうございます。これまでお聞きした皆様のご報告とも絡む内容がたくさんありましたが、前回の竹内委員のご報告の中にも、同様の話があったように思います。

○千葉委員 大変お世話になりました。資料を作成するに当たり、竹内委員のことを思い出しながら、多くの内容を書かせていただきました。

○竹内委員 そうですね、先生がおっしゃった、地域の学校という言葉が印象に残っています。地域の人がいないと学校は成り立たない、そのように思っていたことが本当にうれしいです。

○千葉委員 校長1年目に先輩の校長から教えてもらったことがあります。葛飾区の人口は46万人ぐらいなので、中学校24校で割ると、一つの中学校は約2万人の地域の方に守っていただいて、そういう地域の方の期待を背負っているということを自覚しなさいと言われたことを今でも覚えています。

○議長 小学校と中学校のPTAで違う部分はありますか。

○加藤委員 小学校は6年間あり、行事も盛んなため、PTAの存在感は小学校の方が大きいと思います。土曜日の公開授業についても、小学校の方が、よりオープンな印象があります。

中学校になると、子どもと保護者の距離が少しずつ離れていき、子どもたちにべったりと関わることはなくなっていくと思います。中学校では、小学校でのPTA経験者が上がってくるので、こなれている印象があります。ただし、子ども同士の問題は、中学校の方が複雑な気がします。中学校は3年間しかないのです、どうしても短いというのがあります。

PTAの必要性という部分が気になっていて、PTAなくなるとどんな影響があるのか、行事のお手伝いをする人がいなくなり、教員の負担増につながると思う一方で、それ以外にどんな影響があるのか考えています。千葉先生のような熱量のある方がいらっしゃる場合は、PTA会長やPTAの存在感も大きくなるのではないかと思います。

学校によって、先生によって、PTA会長や副会長によって、温度感や距離感は全く異なります。杓子定規な関係性の学校もあれば、千葉先生の学校のように、しっかりと連携して取り組まれている学校もあり、そのあたりは流動的で、難しい部分もあるのかなと感じています。

○伊藤委員 千葉委員がおっしゃっていた、最も信頼できる団体というのは、本当に共感します。保護者に向けて相談したいときに、PTA会長に相談できるのは、学校としてもすごく心強いと思います。学校の時程を変更する場合など、様々な場面で、一保護者の意見としてではなく、相談できる団体があるのは、本当にありがたいことです。

○副議長 冒頭で、以前は保護者が教員を育ててあげようとする空気があったというお話がありましたが、近年、教員の労働環境についての報道が続く中で、先生は大変そう、かわいそうと感じる保護者が増え、再び助けようとする兆しが出てきているということはありませんか。それとも、逆に厳しくなっているのでしょうか。

○伊藤委員 人によると言ってしまうとよいのか分かりませんが、日頃からコミュニケーションが取れている教員については、厳しくなっていることはないと思います。育ててあげようというのは、昭和後半の頃と比べると、少なくなっているようにも感じますが、どうでしょうか。

○副議長 20代の教員も多いでしょうし、保護者から見るとかなり年下なので、そのような見方もあるのかなと思いました。

○伊藤委員 保護者側の余裕という点では、教員を育ててあげようとか、こんなのいいよといったゆとりは、今は少なくなっているのではないかと感じることもあります。共働きが増え、保護者自身も忙しく、子どもと関わる時間が以前より少ない家庭も増えているように思います。18時や19時まで学童に預けているご家庭もありますし、最近是一緒に悩みを解決しましょうというスタンスの保護者が多い印象です。

○加藤委員 保護者から見て、新任の先生はすぐに分かります。その先生が2、3年ぐらい経つとものすごくしっかりしてきて、保護者側も成長したなと感じることがあります。

○伊藤委員 PTAから離れてしまうかもしれませんが、子どもが楽しく学校に通っていれば、教員が若手で、まだ経験が浅いなど感じられる場合でも、保護者は温かい目で見てくださいと思っています。

○加藤委員 それはあります。新任の先生には、まあ、仕方ないよねといった温かい受け止めになります。

○千葉委員 中学校になると、保護者、特に母親の働き方の幅が少し広がるように感じます。例えば中学生の部活動が18時頃に終わり、18時半に生徒が帰宅しても、中学生だけで留守番できるため、少し仕事の時間を増やしたり、勤務日数を増やしたりできるようになるご家庭もあります。そのため、保護者の生活のタイミングと、中学校のPTAへの協力や加入の体制には、関係があるのではないかと感じています。

○副議長 中学校は教科担任制ですが、担当する教科によって、PTAとの関わりに濃淡が出ることはありますか。

○千葉委員 教科そのものというよりは、その教員の地域やPTAに対する考え方が大きいと思います。

○副議長 音楽や体育の教員はいかがでしょうか。

○千葉委員 音楽の教員は、地域行事で吹奏楽部が演奏したり、体育の教員は体育行事や、体育用具を地域やPTAに貸し出したりすることが多いため、比較的関わりを持ちやすい教科だと思います。

○副議長 そのほかの教科は、あまり関係しないのでしょうか。

○千葉委員 そうですね。

○副議長 働き方改革の話がありましたが、改革を始めたことで、逆に勤務時間中がすごく忙しくなったり、調整が大変になったりと、うまくいっていない側面はありますか。

○伊藤委員 変わるときは、最初は大変な面もありますが、先ほどお話ししたように、指導補助員などの支援体制も増え、だいぶ変わったと思います。また、タブレットの活用も大きく、結果として勤務時間は確実に減っています。

さらに、留守番電話が設置されたことも大きいと感じています。勤務時間外は留守番電話対応とし、緊急時はホーム&スクールのアプリで連絡してくださいとしているため、いつでも電話がつながる状況ではなくなり、その分、対応に取られる時間が大きく減っていると思います。

○副議長 ありがとうございます。

○千葉委員 中学校も留守番電話は大きいと思います。ただし、部活動が18時頃まで行っていますが、学校から帰ってこないご家庭が心配されたり、帰り道を心配したりされる場合もあるので、18時30分頃までは留守番電話にしないようにしています。

部活動はとても大切な活動ですが、教員の勤務時間と職務という点で考えると、18時まで部活を行うと、無償のボランティアになってしまうため、最初から部活動はやりたくないという教員もいます。勤務時間は16時45分までで、多くの中学校は15時45分から16時30分までは休憩時間です。16時30分からの15分だけで部活動を行うことはできません。4月の時点で、校長から教員に対して、子どもたちが楽しみにしている活動なので、ぜひ協力してくださいとお願いしているのが現状です。

この点が、中学校の働き方改革の中で大きな課題だと思います。部活動を指導した教員は、18時に生徒を下校させ、その後に仕事をしてから退勤するという場合が多くみられます。ただし、部活動のない日は、勤務時間内に退勤できるように促しています。

○議長 千葉先生は双葉中学校で勤務されていましたが、勤務は朝から夜までになることもあるのでしょうか。

○千葉委員 夜間は別の副校長がおります。

○議長 校長先生は朝から夜まで勤務されるのでしょうか。

○千葉委員 必要な場合には、夜も勤務しています。本来は、校長も2人いないと、時間的に厳しいです。

○議長 ありがとうございます。本日は非常に多くのご意見をいただき、まだ整理はつきませんが、時間も迫ってきましたので、事務局から次年度についての説明をお願いします。

○事務局 次年度の説明に入る前に、余談になりますが、本日配付した、葛飾の教育の2面に、感謝状を贈呈しましたという記事が載っています。これは、学校支援や放課後子ども事業の支援を行っている団体の一覧で、あくまで感謝状を贈呈した団体のみが載っています。PTA以外にも、学校活動を支える団体や個人が存在しており、これはPTAと同時並行で進んでいる活動だと思えます。こうした活動が、PTAとどのように関係しているのかを考えることも面白いと思えました。

それでは、今後のスケジュールについて説明いたします。資料2をご覧ください。来年度は4月17日からスタートし、議長、副議長との調整の結果、日程は8月まで決定しています。9月から2月までの予定については、改めて議長、副議長と調整の上、お知らせします。最終回は、3月12日に教育委員会委員の皆様との懇談会を行い、その後に最終回の会議を予定しています。

各回の具体的な内容については、改めてご案内します。今年度も審議をしていただきましたが、来年度についても、6月に補助金の審議を予定しています。また、4月17日の会議では、今後の協議の参考とするため、教育長のお考えを伺う機会を設けたいと考えています。PTA支援やコミュニティ・スクールに関して、教育長がどのような考えをお持ちなのかについてお話を伺う場として、議長、副議長からのご依頼を受け、現在調整を進めています。

また、各回で協議したことについては、第16回の会議までに提言として取りまとめる作業に入ります。具体的な内容はこれからですが、そのようなスケジュールで進めていきますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上です。

○議長 ありがとうございます。まとめると言われるとドキドキしますが、4月の会議で、安心できる見通しや計画をお示しできればと思います。ほかに、言い残したことや、改めてお伝えしておきたいことはありますか。

それでは、本日の会議は、お二人のご報告に改めてお礼を申し上げ、終わりにしたいと思います。ありがとうございます。